

# 西俊輔の「毎日楽しく」

Vo1.11 2006年7月号

みなさん、沖縄に行かれたことはありますか？ 実は私は沖縄が好きなのですが、その理由は「青い海と白い砂浜」へのあこがれだけではないようです。

みなさんご存知のとおり、沖縄というところは太平洋戦争（第二次世界大戦）で日本では唯一地上戦が行われたところです。その激しさは私たちの想像を絶するものだったようで、島の南側は「鉄の暴風」と形容されるほどの激しい砲爆撃、島の北側は飢餓地獄と呼ばれ兵隊にとっても住民にとってもまさに地獄だったといえます。大城将保氏の「改訂版 沖縄戦」という本には、『沖縄戦の体験が原爆や空襲のそれと決定的に異なるところは、それが三カ月以上におよぶ極限状況の体験だった点である。（中略）壕の中で泣きわめくわが子を自分の手で絞めころした母親、動けなくなった老母を生き埋めにして逃げ去った息子……（中略）要するに、人間性が完全に破壊され、狂気のうちに死に、狂気の中から生き返ってきたのである。原爆や空襲、あるいは組織的な戦闘で死んでいった人たちは、すくなくとも死の直前までは人間としての最低限の尊厳は保持しえたはずである。沖縄の戦場はそうではなかった。人間が人間でなくなったのだ。』かなり悲惨な記述も多く、とてもここでは書ききれません。それでも現実起こったことに比べれば書かれていることはほんの一部なのでしょう。

本にも書かれていますが、戦争とは何かという問題はそのまま人間とは何かという哲学的な問題にいきつくこととなります。沖縄に行くと必ずそういうことを考えてしまうのですが、沖縄を好きなのはそういった「影」の部分と南の島の「光」の部分とのギャップに引きつけられるからかもしれません。

最近、靖国問題などで近隣の国との関係がぎくしゃくしています。外交ですから駆け引きその他いろいろあるのですが、私などはついハラハラして見てしまいます。平和な日本が続いてくれるよう願わずにはいられません（最近物騒な事件は増えていますけど）。

それにしても、沖縄のパッションフルーツはおいしいですね。みなさん、食べられたことはありますか？

